平成２９年度　第２回京都市国際化推進プラン点検委員会　摘録

日　時：２０１８年（平成３０年）３月２２日（木）午前１０時～正午
場　所：京都市国際交流会館　３階　第３会議室
議　題：（１）前回委員会の振り返りについて（前回委員会：平成２９年７月１１日）
・各委員からの主な意見
・前回委員会開催後の取組状況
・来年度の予算状況
（２）京都市国際化推進プランの総括と今後必要な取組について
出席者：京都市国際化推進プラン点検委員会委員
京都市（辻国際化担当局長，牧国際化推進室長，山口同副室長ほか）
次　第：１　開会
２　京都市挨拶（辻国際化担当局長）
３　議題
４　閉会

議題（１）前回委員会の振り返りについて

＜事務局＞
（資料１に基づき説明）
＜委員＞
事務局からの報告を聞いて，私たち委員からの意見を京都市の取組に反映してもらっていることがよくわかり大変嬉しく思う。この委員会が，京都市の国際化を進めるために貢献できていると感じる。
＜委員＞
同感である。市民しんぶんが最近，私の家にも届くようになった。そして内容も面白く，若者も見たいと感じるものになっている。
＜委員＞
京都市のアプリ「Hello KYOTO」からでも，市民しんぶんが見られるよう工夫がされている。
＜委員＞
一方で，課題として感じていることは外国籍市民に対して「納税の説明」がわかりにくいことだ。京都市国際交流会館において相談会も実施しているが，説明をもっとわかりやすく工夫できないだろうか。
＜座長＞
「来年度の予算で実施する取組」について，ご意見はないだろうか。「多言語による小学校生活スタートガイドの作成」は，とても重要な取組なので，もっと予算をかけて実施しても良いと思う。
＜委員＞
「避難誘導標識等へのピクトグラム（図記号）の導入」について，提案がある。日本の病院は，外国人にとって見つけにくいのが現状だ。警察やパトカーはPOLICEの表示があり，誰から見てもわかりやすいが，病院はそうなっていない。パブリック，プライベートを問わず改善されることが望ましい。
そしてもう１点。東京では外国人の医者を増やそうという動きがある。外国人観光客が増えている京都市でも，外国人の医者を増やせないだろうか。
＜委員＞
まずは外国人を受け入れられる病院を周知する必要がある。京都市と京都市国際交流協会が発行して

いる「京都市生活ガイド」において，外国語が通じる病院を紹介している。図記号で病院であることがわかっても，実際に外国人への対応ができるスタッフが病院にいなければならない。

また，京都市国際交流教会では「多文化子育てハンドブック」を今年２月に作成したところである。京都で出産・育児をされる外国人の母親たちなどに向けて，病院選び等さまざまな情報が書かれている。

＜委員＞

病院選びについては，眼科や耳鼻科の違いも外国人にはわかりにくい。

＜座長＞

病院を訪れる患者に対して，どの科を受診するのがよいかを診断する取組が日本で進んできている。今後，この点についても把握していくのが良いだろう。そして，医療通訳は外国人にとって非常に大切だ。彼らにとって「どのような痛みなのか」をきちんと伝えるのは難しいことだろう。また，外国人にとってわかりやすい道路標識も大通り以外の道路でも進めて頂ければと思う。

＜委員＞

ピクトグラムの絵が，外国人にとってわかりくいという印象を持った。

＜委員＞

このような外国人に対しても情報発信する取組については，企画段階からネイティブの外国人に参加してもらうのが良いだろう。

＜座長＞

ピクトグラムについては，日本工業規格（JIS）が決めているという部分もあるだろうが，京都市には留学生もたくさんいるので，留学生たちと一緒に作っていくことも有効かもしれない。

他にご意見はあるだろうか。事務局から，「レジリエント・シティ」の説明があったが，京都は大学で自然災害対策の研究が進んでいる。大学側の取組とも情報共有できないだろうか。

事務局からの報告を聞いていると，過去に比べて市役所内でのさまざまな部署との連携により国際化が進んでいると感じる。引き続き宜しくお願いしたい。

議題（２）京都市国際化推進プランの総括と今後必要な取組について

＜事務局＞

（資料２に基づき説明）

＜座長＞

世界歴史都市連盟のネットワークを，今後どのように生かしていくのか考えなければならない。世界歴史都市会議をはじめとした連盟の活動については，これまでどのような成果や貢献があったのかという振り返りが必要だろう。

＜委員＞

連盟の活動だけではなく，姉妹都市全般についてもあまり市民生活の中では意識されていないと感じる。パリ市については「ニュイブランシュ KYOTO」を実施しているので，市民にとっても馴染みがある姉妹都市だと思う。京都市国際交流会館に姉妹都市展示コーナーもあるが，パリ市以外も情報発信していってもらいたい。

＜委員＞

昨年は，大阪市が姉妹都市であるサンフランシスコ市との姉妹都市解消の手続きを進めるという残念

なニュースがあった。私たちも教訓として意識しておかなければならない。
＜座長＞
　市民レベルの交流と都市間外交は異なる点があるのだろう。その他，ご意見はあるだろうか。
＜委員＞
　自分自身が地域の町内会議に参加したことがないので，きっかけを与えてもらえれば嬉しい。
＜委員＞
　その点は，町内会によって大きく事情が異なると思う。地域によっては，外国人の方に対してどのように呼びかけていいのかわからず，最初の一歩が踏み出せないのかもしれない。
＜委員＞
　地域コミュニティで孤立しないことは，災害発生時にとても重要だ。
＜座長＞
　民生委員も人手不足という話を聞くので，いま委員が話していた点について何かデータがあればよいと思う。
＜委員＞
　外国人と日本人が距離を縮めるために，町内運動会で一緒に盛り上がるのもよい。外国人に対して偏見が少ないのが，子ども達である。
＜委員＞
　「多言語表記の更なる充実」について提案したい。多言語でのパンフレットやチラシを作成する際には，必ずネイティブ・スピーカーの確認をしてほしい。残念ながら，外国人観光客へのマナー周知のチラシが，ネイティブの外国人にとっては上から目線でのメッセージとして受け止めてしまう。
＜委員＞
　このような情報発信をする際には，企画段階からネイティブ・スピーカーが入るのがよい。そして，うまくユーモアのセンスも取り入れてもらいたい。また，もう一つ提案させてもらいたいこととして，教育委員として外国人の方にも入ってほしい。
＜委員＞
　教育分野について話が出たので，私も提案させてもらいたい。フィリピン人の子ども達に対して，母語支援（タガログ語による支援）を行っているが，使われている資料が古いと感じている。言語も今の時代に合わせて更新してもらいたい。
＜座長＞
　時間もなくなってきたので，本日の委員会はこれで終了としたい。さまざまな意見交換を行ったが，共通テーマは「上手に伝えるための方法」だったようである。

（以上）